

Fish-1 グランプリ での 水産・海洋高校による取り組み発表

国内には 46 の水産・海洋高校があり、地元水産物普及に向けた取り組み等を行っています。

魚食普及推進センターでは、Fish-1 グランプリでの高校生による取り組み発表の場を設け、6 年前から毎年 4 校に依頼しています。学園祭、定期テストの時期と重なる場合もあり、当然ながら学業や学校活動優先ですが、今年も 4 校に発表してもらいましたので、ステージ発表と、テントブースでの試食体験の内容を報告します。

同時に、水産庁「魚の国のしあわせプロジェクト」実証事業で今年度最優秀賞を受賞した中部水産(株)神谷取締役のステージ写真を掲載します。



服部幸應先生による試食の様子

○岩手県立高田高等学校 イシカゲ貝

陸前高田の広田湾のみで養殖されているイシカゲ貝は幻の貝と呼ばれプライドフィッシュに選ばれています。震災前に 35 t だった出荷量は震災で壊滅的被害を受け貝は全て流出。ゼロからスタートながら地元の努力と「頑張る養殖復興支援事業」により、2017 年に 59 t、2018 年は 70 t の予定と、震災前よりも出荷量は増加し、最近ではシンガポールなどへ活貝で輸出もされています。

このイシカゲ貝と、地元でカゼと呼ばれているウニ、シイタケと昆布の出汁で味を整えて「陸前高田の夢貝風(むかいかぜ)：ウニとエゾイシカゲガイの和風スープ」として商品化しました。様々な向かい風に立ち向かい追い風にするという夢や思いが込められた商品で、陸前高田市のふるさと納税の返礼品として入手できます。

会場での試食はこのスープを使った炊き込みご飯を提供しました。聞いたことがない魚介類に興味を持つのも、魚好きが集まるこのイベントの特徴。興味を持った来場者からの質問に生徒が元気に答えていました。

○栃木県立馬頭高等学校 アユの魚醤

「海が無いのに水産高校？」と思うかもしれません。声に出して疑問を呈する来場者もいましたが、驚くことなかれ。馬頭高校ではウナギの養殖を水産高校で初めて成功させ、チョウザメの養殖とフレッシュキャビアの生産を行っており、アユやサケの魚醤も販売しています。淡水魚も日本が築きあげた立派な魚食文化の一つです。「あゆ兵衛(アユベエ)」は、30 g 程度のアユの内臓と頭を取ってアユの魚醤の副産物で焼きあげたアユの焼き干しです。来場者から「お酒に合いそう！」などの感想がありましたが、お酒に対する生徒の反応は微妙でした。「そうなんです！」と返事をする、それはまた問題ですが・・・。

ステージではアユとサケの魚醤の説明も行い、魚醤を絞った後の副産物も無駄にせずに「あゆ兵衛」に利用す

る、品質を保ちながら原価を下げる手法など、努力が感じられる内容でした。魚醤のパッケージはデザインが得意な生徒、画像担当は写真撮影が得意な生徒など、役割分担して仲良く開発している光景が目には浮かびました。

○高知県立高知海洋高等学校 ウルメイワシ

高知と言えばカツオですが、宇佐地域ではウルメイワシが有名です。昭和 37 年ごろから巻き網禁止で一本釣りや多鈎（タコウ）釣りが行われており、当初 134 隻だったウルメイワシ漁漁船はピークの昭和 60 年には 300 隻になりましたが、現在は 30 隻程度になっていますが、釣りで漁獲されたウルメイワシの鮮度は抜群、宇佐のウルメイワシの刺身は絶品です。このウルメイワシを用いて揚げかまぼこ「ウルメがテン」を開発しました。イワシの骨はザラザラ感があり懸念点だったものの、アンケートで歯触りが良いと 7 割が反応したため、あえて残す事でカルシウム強化としています。この商材を販売するための契約内容も説明するなど、営業マン顔負けの発表でした。

○鹿児島県立鹿児島水産高等学校 キビナゴ

「枕崎PR隊さつま乙女」として活躍している3名が、㈱南九州ファミリーマートによる、県内高校生“地産地消”商品開発コンテストで最優秀賞を受賞した「さくらかをる 燻しきざこ（キビナゴ）オイル漬け」について発表しました。原料（足が速く地元のみで消費されるキビナゴ、高校で製造した塩、製法（鰹節の焙乾、燻煙）一つ一つ地元こだわった話は、地元愛溢れるの開発秘話として来場者が頷いている姿が多く見られました。また、発表内容を全て記憶しているだけでなく、来場者全体に視線を送りながら伝えている様子はプロ級でした。ショッピングセンターなどで「枕崎PR隊さつま乙女」として鰹の解体ショーを何度も実施している経験があると聞き納得です。

その他、人生初の政治家との接触到緊張しながらも高野政務官の気さくな対応に驚いたり、さかなクンのステージの盛り上がりや記念撮影、和食を極めたい生徒が服部幸應先生にサインを貰うチャンス、東京の物価の違い（ランチで千円！）などから、今後の人生や学校での開発に役立つ情報を得る機会になったのではないかと感じました。

発表や試食品の準備を始め、当日も遠方から来ていただいた生徒、先生方、改めてありがとうございました。



発表風景



ギョギョッと記念撮影



高野光二郎 農林水産大臣政務官による視察



感謝状贈呈

「魚の国のしあわせプロジェクト」実証事業のステージでは、最優秀賞を獲得した中部水産㈱の神谷取締役が、実際の魚食普及活動で行っている「耳石ハンター」を中心にした「おさかな学習会」を軽快なテンポで実演していました。「目に見える魚の健康」（魚油と豚のラードの比較）、「カルシウムを食べて振動を与えると背が伸びる」「魚の種類だけある耳石のコレクションを増やしていく」・・・



魚の国のしあわせ推進事業 最優秀賞を受けた
中部水産㈱神谷取締役のステージ発表